

2020年東京オリンピック・パラリンピックにおける 衛生動物のリスクアセスメントと対応について

(公社)東京都ペストコントロール協会 副会長 元木 貢

はじめに

2020年東京オリンピック・パラリンピックまで2年を切りました。1964年の東京オリンピックでは、東京都殺虫消毒同業協会が(社)東京都環境衛生協会を通じ選手村の殺虫・殺鼠とオリンピック会場の樹木害虫の駆除を550万円で請け負いました。スプレーヤーによる残留噴霧と三兼機とスイングホグによる煙霧が主体でした¹⁾。北京オリンピックでは中国政府が英国レントキル社と提携して競技会場ばかりでなく市全体に及ぶ大規模な防疫体制を構築し国を挙げて害虫防除を行いました。ロンドンオリンピックでは、施設管理者に防鼠構造と適切な衛生害虫対策を呼び掛けました。しかしながら、オリンピック期間中にジャーナリストが宿泊した大きなホテルでトコジラミが大発生し、多くのジャーナリストが他のホテルへの移動を余儀なくされました²⁾。リオオリンピックではジカ熱の流行が懸念され、22万の兵士が動員され大規模な蚊の防除が行われました。

今回の東京オリンピックは夏に開催され、期間中は選手や関係者、ボランティア、観光客など約100万人が日本を訪れる見込みで、様々なリスクが考えられます。そのため東京都ペストコントロール協会では東京都に対して衛生動物によるリスクアセスメントとその対応策について呼びかけを行っています。

1. リスクアセスメント

(1) 蚊媒介性感染症³⁾

デング熱、ジカ熱、チクングニア熱、ウエストナイル脳炎などの流行地から多くの選手や関係者、旅行者が訪れます。とくに不顕性の患者が日中、オリンピック会場や公園を訪れ蚊に刺されると、ウイルスが蚊の体内に取り込まれ、増殖されたウイルスがさらに他の人を刺すことにより伝播されます。施設敷地内や敷地に隣接する雨水枡等、公園、神社仏閣などの観光地の発生源へのIGR剤散布を行い、蚊を減少させることが必要です。

(2) ネズミ媒介感染症⁴⁾

ネズミに寄生するノミなどの節足動物からペストや発疹熱など、糞・尿を通じて菌に汚染された食べ物、生ゴミ、動物、土などに触れることで感染するサルモネラ症、クリプトスポリジウム症、腎症候性出血熱、レプトスピラ症などが懸念されます。オリンピック施設、施設敷地内の植栽、施設周辺100m範囲の植栽部分におけるネズミ防除、床や排水溝などの施設や設備の清掃など衛生管理が必要です。

(3) 消化器系感染症対策⁵⁾

とくに夏期に懸念されるのはサルモネラ属菌、黄色ブドウ球菌、腸管出血性大腸菌(O157)、

腸炎ビブリオ、カンピロバクター、ウエルシュ菌、ノロウイルスなどで、多くの食中毒菌の二次汚染・交差汚染を防止する必要があります。そのためには、侵入口の閉鎖、発生源を除去するための清掃、ネズミや衛生害虫の定期的な生息調査、防除が必要です。

(4) トコジラミ

日本ペストコントロール協会の会員に対する防除件数のアンケート調査⁶⁾では、10年前に較べ16倍に増加しています。海外からの旅行者による持ち込み、簡易宿泊施設利用者による拡散が原因と思われます。ホテル従業員や一般市民がトコジラミを知り、早期発見、早期対策を行うことが望まれます。

(5) ゴキブリなど不快害虫

オリンピック施設の食品を取り扱う部門ではゴキブリ、ハエ類の発生が、ビルの地下湧水槽にはチカイエカが、汚水雑排水槽にはチョウバエやコバエが発生します。建築物衛生法の維持管理要領⁷⁾・マニュアル⁸⁾に基づく日常の生息調査と衛生管理、侵入防止、発生した場合の速やかな措置が必要です。

(6) 樹木害虫⁹⁾

施設敷地内や施設周辺 100m 範囲のサクラ、ツツジ、ツバキ、ウメなどにはドクガ・チャドクガが、タケ、ササにはタケノホソクロバガ、石垣、樹の幹などに生えたコケからはコケガ類など有毒なケムシが発生します。モンクロシヤチホコやアメリカシロヒトリは無害ですが、大量に発生して不快害虫となります。そのほかスズメバチが枝に巣を作ることも懸念されます。

2. 提案事項

- 1) ホテルや選手村の管理者へトコジラミの資料を配布し、早期発見、発見時の早期対応を呼びかける。(公社)日本ペストコントロール協会では「トコジラミQ&A」¹⁰⁾「トコジラミでお困りではありませんか？」¹¹⁾のパンフレットを発行しているのでご利用ください。
- 2) 新築建物に対して、「建築確認申請時における保健所長の審査」項目(防虫・防鼠構造等)¹²⁾の徹底を呼びかける。
- 3) オリンピック施設管理者に対し、国交省の「建築保全業務共通仕様書」¹³⁾に基づいたねずみ・昆虫等防除の実施について通知を出す。
- 4) オリンピック競技場施設管理者に対して、雨水枡等蚊の発生場所の幼虫対策を呼びかける。
- 5) 特定建築物に対して、維持管理要領・マニュアルに基づいたねずみ・昆虫等防除(とくに環境整備等発生源対策、侵入防止対策)の徹底を呼びかける。
- 6) HACCP(ハサップ)の考え方に基づく衛生管理のための手引書「小規模な一般飲食店事業者向け」¹⁴⁾(公益社団法人日本食品衛生協会発行)の普及啓発を図る。
- 7) 主要会場において、2019年より蚊のサーベイランスを行う。
- 8) 開催時に衛生害虫にかかわる感染症が発生した場合、いつでも出動できるように、地元のペストコントロール協会と協定を締結する。

おわりに

本リスクアセスメントと対応は今回のオリンピックのためだけではありません。政府は東京五輪を開く 2020 年に外国人観光客数は年間 4 千万人を目標に掲げています。感染症やトコジラミが国内に持ち込まれるリスクは今後ますます増加していきます。また、維持管理要領・マニュアルに基づいたねずみ・昆虫等防除、建築保全業務共通仕様書の普及が、飲食施設の食品による危害防止には HACCP（ハサップ）による衛生管理が必須です。オリンピックはペストコントロールを知っていただき衛生管理を向上させる絶好の機会となるでしょう。

参考文献

- 1) 元木三喜男. 2013. 流れ雲. Pest Control Tokyo, 64 : 12-14, 東京都ペストコントロール協会. 東京.
- 2) Clive Boase 私信, 2017.
- 3) 上村清編. 2017. 蚊のはなし-病気との関わり-. 130pp., 朝倉書店, 東京.
- 4) 谷川力. 都会のネズミの生態と感染症. BMSA 会誌. 22 (2) : 8-11
- 5) 工藤由紀子. 2007. 季節と食中毒-夏場の腸炎ビブリオ対策. 食と健康, 6-14. 日本食品衛生協会, 東京.
- 6) トコジラミアンケート調査結果について. 2017. ペストコントロール, 28-29, 日本ペストコントロール協会, 東京.
- 7) 厚生労働省健康局長通知「健発第 0125001 号」. 2008. 「建築物における衛生的環境の維持管理について」.
- 8) 厚生労働省健康局生活衛生課長通知「健衛発第 0125001 号」. 2008. 「建築物における維持管理マニュアルについて」.
- 9) 害虫相談「ケムシ」. 東京都ペストコントロール協会ホームページ,
<http://www.pestcontrol-tokyo.jp/>.
- 10) トコジラミ Q & A. 日本ペストコントロール協会, 東京.
- 11) トコジラミでお困りではありませんか?. 2015. 日本ペストコントロール協会, 東京.
- 12) 東京都健康安全研究センターホームページ. 建築物衛生のページ「東京都建築確認申請時における保健所長の審査」.
http://www.tokyo-eiken.go.jp/k_kenchiku/bldg/zumensinsa/.
- 13) 国土交通省大臣官房官庁営繕部. 2018. ねずみ・昆虫等の調査及び防除. 建築保全業務共通仕様書及び同解説 平成 30 年度版. 建設出版センター, 東京.
eiken.go.jp/k_kenchiku/bldg/zumensinsa/#shinsa.
- 14) HACCP（ハサップ）の考え方に基づく衛生管理のための手引書「小規模な一般飲食店事業者向け」. 2017. 51 pp., 日本食品衛生協会, 東京.